

下田歌子記念女性総合研究所

News letter



実践女子大学 下田歌子記念女性総合研究所
新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部
社会連携センター
連携事業 特別企画展示

下田歌子と教育

新潟青陵大学
一号館二階 (図書館内)

二〇二三年十一月一日 (火)
〜三十日 (水)



新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部社会連携センターとの連携事業として、特別企画展示「下田歌子と教育」を開催しました。

Contents

02 Column 01
実践女子大学での教育と研究

細江 容子

03 Column 02
下田歌子先生と幼児教育

松田 純子

04 第6回
実践の現代史・ナラティブ(語り)
飯塚幸子先生インタビュー

07 Column 03
新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部における
特別企画展示「下田歌子と教育」 高橋 桂子

08 研究所活動報告

実践女子大学での 教育と研究

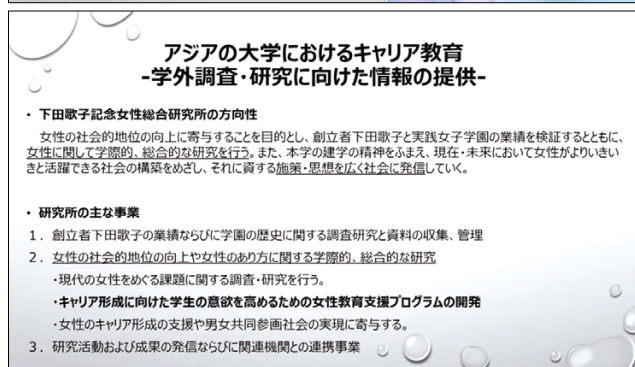
生活科学部生活文化学科 教授 細江 容子



国立大学法人上越教育大学学校教育学研究科教授を経て、2014年より実践女子大学生生活科学部生活文化学科にお世話になり、約9年が経過し2024年3月に定年退職ということで、教育・研究活動に区切りをつけることとなった。赴任に際し教育に関しては、生活心理専攻の教員として「家族関係学」「家族社会学」「生活文化史1,2」等の科目を担当するという一方で、特に基幹科目として「生活文化史1,2」を担当し、幼児教育と生活心理の学生100名ほどに対していかに学生達に力を付けて社会に出てもらうか、その講義内容に苦心しつつ意欲的に取り組んできたと考えている。

実践女子大学下田歌子記念女性総合研究所の兼務研究員の教育活動としては、「シニアパソコン・カレッジ@実践女子大学(共催・後援事業)」による地域貢献やコロナ禍によりそれまで行われてきた対面とは異なるZoomミーティングでの「2020年度内定者トーク(共催事業 共催:学生総合支援センター、キャリア・生活支援課担当)」などを実施した。

研究に関しては、下田研の教育活動とも関わる前任校から継続し発展させてきた科学研究費のテーマ「高齢者へのジェロントロジー教育」の2022～2024年のテーマ「社会関係資本創出を想定したジェロントロジー教育の新たな展開」について述べてみたい。特にこの研究では、人生100年時代の共働、共生の地域づくりを志向したFourth Ageのジェロントロジー教育プログラムの新たな展開を目指している。研究の目的は、今後20年で倍増(100万人増)するFourth Age世代における人生100年時代のライフステージを想定した地域社会において、ICTの学習とその利用・活用による生涯学習を通してのジェロントロジー教育プログラムを新たに展開することを目指すものである。コロナ禍においては、日常生活の中で家族以外とのコミュニケーションの機会が減り、高齢者に情報が届きにくい状況になっていることに加えて、高齢者に生じやすい心理特性などがあることも示されており、従来と異なる情報提供・発信の方法を検討する必要があると考えている。コロナ禍におけるFourth AgeのICT利用・活用(Zoom等)の学習とそれを通じて情報の収集や学習、コミュニケーション機会の増加は、人生100年時代に健康寿命を延ばし生き続ける高齢者の心身のWell-beingにつながるものであるといえる。創立者下田歌子の信念である「女性が社会を変える、世界を変える」という建学の精神に基づいて、超高齢化社会に研究でも貢献できるように努力を続けていきたいと考える。



下田歌子記念女性総合研究所・勉強会での報告



学生の補助によるシニアパソコン・カレッジ(学生と高齢者、相互の学びの機会が生まれる)

下田歌子先生と 幼児教育

生活科学部生活文化学科 教授 松田 純子



実 践女子大学に奉職して19年目となりました。私の専門は、保育学・幼児教育学で、生活文化学科に保育士コース(現在の幼児保育専攻)が設置される前年の2004(平成16)年4月に着任しました。保育・幼児教育の歴史がない大学で一から保育者養成が始まるのだと思っていた私ですが、かつて実践幼稚園が存在したことを知りました。また、着任後まもなく、香雪記念館の「下田歌子と欧米教育視察展」で松野クララの書簡をみつけて驚きました。ドイツ人松野クララ(Clara Louise Zitelmann, 1853 - 1941)は、我が国最初の官立幼稚園である東京女子師範学校附属幼稚園の首席保母として、1876(明治9)年の開園当初より実際の保育の指導に当たった人物です。近代日本の幼児教育草創期の歴史に名を刻む松野クララ女史が、1893(明治26)年9

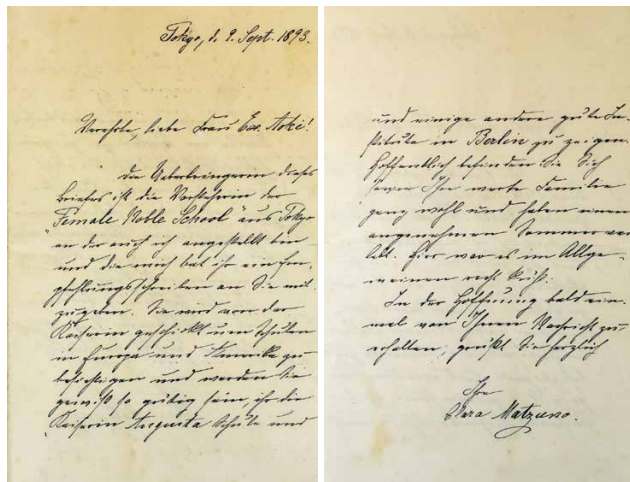
月に下田歌子先生が欧米の女子教育事情視察のため渡航されるにあたって、ドイツの知人に紹介状を書いていたのです。保育・幼児教育を学ぶ者であれば誰もが知っている松野クララ女史と下田歌子先生との思いがけないつながりは、その後ずっと私の心の中にありました。

2018(平成30)年に下田歌子記念女性総合研究所の兼務研究員にいただいた折には、在任中に実践幼稚園について調べてみたいと思っていました。その機会が巡ってきたのは、広井多鶴子前研究所長より下田先生と幼児教育に関して書いてみないかとお声かけをいただいた時でした。思いのほか資料は少なく、なかなか筆が進まずご迷惑をおかけしながらも、何とか書き上げることができたのが、広井多鶴子編著『下田歌子と近代日本一良妻賢母論と女子教育の創出』[実践女子大学下田歌子記念女性総合研究所研究叢書1](勁草書房、2021年)の中の「第10章 下田歌子と幼児教育—明治期から大正期の家庭教育と幼稚園教育をめぐって」でした。長年抱えてきた宿題を提出できたような安堵感とともに、実践女子大学に幼児保育専攻が存在することの意義を、少しばかりですが、示すことができたという思いがあります。

私事ながら、今年度をもって早めに職を辞し、故郷熊本に帰ることになりました。改めて実践女子大学での19年間を振り返ってみると、様々な幸運に恵まれ、多くの方々との貴重な出会いがありました。そして、たくさん大切な経験をさせていただきました。この場を借りて心から御礼を申し上げます。皆様の益々のご発展を遠方よりお祈り致しております。



幼稚鳩巢戯劇之圖(複製)お茶の水女子大学 所蔵
(原画：大阪市立愛珠幼稚園 所蔵)



書簡「松野クララ」(実践女子大学図書館 所蔵)



実践幼稚園卒業記念(明治44年4月)実践女学校玄関にて(実践女子大学図書館 所蔵)

実践の現代史 ナラティブ



interview

飯塚 幸子氏

戦後の実践の歩みを知るために、本研究所では卒業生や教職員に聞き取りを行っております。題して「実践の現代史・ナラティブ（語り）」。

卒業生や教職員の体験を伺うことで、実践の過去と今をつないでいきたいと思っています。

「ナラティブ」の6回目は、約40年にわたり、大学家政学部（生活科学部）で教鞭を執られ、また、その後、大学・短期大学学長、実践桜会理事長を歴任されました飯塚幸子先生です。第5回に引き続き、今回もインタビュー形式により、お話を伺うことができました。実践で過ごした46年の中で、当時の学園の様子や、学生の雰囲気、また、学長職に就かれての様々なエピソード等、また、現在の私達へのメッセージなどを中心にご紹介します。

（所長 高橋桂子）

飯塚 幸子氏 プロフィール

- ▶1949（昭和24）年3月 実践女子専門学校家政科卒業。後、伊東式自由ヶ丘洋裁学院研究科、桑沢デザイン研究所 リビングデザイン研究科卒業。
- ▶1960（昭和35）年4月～2000（平成12）年3月 実践女子大学家政学部 生活科学部長、学園理事、評議員を歴任
- ▶2000（平成12）年5月～2000（平成13）年3月 社団法人教育文化振興実践桜会 理事長
- ▶2001（平成13）年4月～2007（平成19）年3月 実践女子大学、実践女子短期大学学長、学園理事

—— 実践女子専門学校に入学された理由をお教えてください。

私は、東京都麻布（現在の有栖川宮記念公園の辺り）で幼少期を過ごしました。親戚や父の周りの女性は高学歴の方が多かったと記憶しています。父から実践の卒業生は、地味だがしっかりしている人が多いから信頼できる（装丁よりも中身）と実践への入学を勧められました。また、私が通っていた都立目黒高校の国語科と家庭科の先生が実践の卒業生で、尊敬する先生方でしたので、実



践女子専門学校へ入学しました。当時は、校舎が戦争で被災して入学試験ができず、推薦入学のみでした。それでも全国から学生が集まったのは、下田先生の学校であるという事が一番ですが、学内に寮があったことも理由の一つだったと思います。また、戦後で着るものがなく、家政系は人気がありました。私自身も物を作るのが好きでしたので、被服科を選びました。それに、家庭科の教員免許が取得できたことも人気の理由だと思います。私が専門学校2年生の時、一時的に英文科がなくなり、歴史科ができました。当時、社会科の教員免許を取得できるよう文部省に申請し、歴史科の学生全員が試験を受けて見事に合格し、教員免許取得の認可を得ることができるよう、学生はとても優秀でした。今考えると、当時、社会科の教員免許取得の認可をいただいていたという事が、現在の人間社会学部（社会科教員免許取得可能）に繋がっていると強く感じています。

—— 学生時代の思い出、印象に残っている授業等をお教えてください。

思い出はたくさんありますが、授業はかなり厳しかったですね。特に書道の授業は印象に残っています。授業は、和歌や俳句などの宿題を家で清書して提出すると、先生がみんなの前で、一人一人の作品を批評する形でした。両親が書道をしていたこともあり、身近に短冊があったので、宿題の和歌を短冊に書いて提出したら、120名くらいの学生の前でそれを見せ、「こういうわきまえない者はけしからん」とおっしゃいました。私のような未



熟者が短冊に書くのはまだまだ早いという事だったのでしょう。自分の居場所をわきまえ、身の丈を知るという事を教えていただき、ずっと今でも忘れることなく心に留めております。また、図案の授業の時には、逆にみんなの前で褒めていただいたので「もっと勉強しよう」と、とてもやる気になりました。

また、私が学生のころはミシンも何もない時代でしたから、「夜なべの被服」と呼ばれるほど被服科は宿題が多かったのです。和裁の授業では「浴衣の早縫い」がありました。その授業は反物を断つところまで、家でやってきて良いのですが、浴衣を仕上げるまで帰宅できませんでした。私も自分なりの準備をして臨んでいましたが、どうしても仕上がりは夜遅くなりました。ご両親が仕立て職の友達は、私よりずっと早くに仕上がって、帰っていきます。不思議に思い、その友達に尋ねると手縫いの糸も事前に必要な長さに切って、縫う順番にきちんと揃えてから授業に臨んでいたとのことでした。私はその時、前準備の重要性を痛感しました。物事を思うように進めるためには、前準備をどれだけきちんと行ったかでその仕事は決まるという事を学びました。

三條西公正先生の日本服装史は大変興味深いものでした。三條西先生は公爵でいらして、皇室との関係が深く、皇室の行事があると講義は休講になりました。先生はご自身のおめしものもお持ちになり、私達に見せてくださいました。とても優しい先生でしたが、授業には厳しく、誰もAを取った人はいないと聞いておりました。ある日、三條西先生から「茶屋辻染めの特徴を書け」という宿題が出されました。私は実物が見たいと思い、先生にお願いしました。すると、先生はお口添えくださって、「帝室博物館へ行って本物を見てきなさい」と言ってくださいました。私は友達と帝室博物館へ行き、本物の茶屋辻染めを見てきました。そしてその時の感動をレポートに書いて提出したところ、成績がA+だったのでとても嬉しかったことを覚えています。友人が先生に「皇室の行事に参加なさった時、お手洗いにいきたくなかったらどうしているのですか？」と質問したところ、先生は「お手洗

いは我慢します。そして、前日からあまり水分を取らないように準備しています」とお答えになりました。ここでも前準備が大切なのだと学びました。こうして、実践で学ぶ間に様々なところで前準備の大切さを学び、身に着いた気がしています。実践には、素晴らしい教授陣が揃っておられて、一流のものを体験し、見る事ができた経験は、私の宝物になっています。

—— 教員を目指した理由と学生とのエピソードがあればお教えください。

実践を卒業後、父は私を就職させたくなかったのも、良い縁談があったらいつでも…と家事手伝いをするよう言われておりました。そんな時に親戚が勤めている高校で家庭科の教員に欠員が出たので、応募しないかと声がかかり、応募しました。前任者が実践の卒業生であったこともあり、合格しました。校長先生から前任者が遅刻も欠席もない見事な先生だったと聞き、プレッシャーになりました。この学校は時間に厳しく、退勤時間も午後4時と決まっており、残業はできませんでした。そこで私は、午後4時以降、何かしなければと思い、午後6時から午後9時までの間、桑沢デザイン研究所に通い勉強しました。

ここでは、桑沢洋子先生の生き方に大変影響を受けました。先生は、これからは家で洋服を縫う時代ではない。既製服の時代だとおっしゃいました。日本で初めて、東京の大丸デパートに既製服を出した方です。また先生は、学生と話すのが好きで良く飲み会を開いて、その時も「何か、かくし芸をしなさい、このような場でも、自分を表現する場であるから、何もできないのではだめだ」とおっしゃいました。その後、先生の紹介で女子美術大学の非常勤講師を1年間勤めた後、新潟の織物会社のデザイン部に就職する予定でしたが、実践の細井起能先生から声をかけていただき、実践に就職し、専任講師となりました。

当時、被服学科には博士課程はありませんでしたが、私のゼミ生の中で5名博士号(乙)を取得し、それぞれ国公立大学等で活躍していることが、大きな喜びであります。また、今でも印象に残っているのが、毎年ゼミ生を自宅に呼んで、学生達が手作りの食事会を開いたことです。以前私は横浜に住んでいたもので、中華街でゼミ生と食事会を行ったこともありました。高級で有名なお店ではなく、横浜で働く中国の方々が行くお店に連れて行き、本物の味を体験させました。何事も本物を経験することはその後の人生でとても大事になります。また、ゼミ生同士も強い絆で繋がっていたように思います。あるゼミ生が自分が就職活動で内定をいただいた際に着てい

たスーツの上着を後輩達のために置いていってくれました。小さなことですが、ゼミ生達は、先輩から後輩へと繋がっている意識を持つことができ、授業のノートを置いていく等自分なりに後輩たちの為に…と考えてくれました。私の授業のノートも置いていく学生がいたので、私自身も毎年同じ授業をされていてはいけないと刺激になりました。

私は、周りの教職員の方々からサポートをいただき、また、応援を受け、学生達に支えられたお陰で、実践での生活を過ごすことができました。本当に皆様に感謝しております。

—— 学長時代に苦勞なされたことなどありますか？

学長時代は、何もかもが初めての経験でした。いろいろ思い出されますが、人間社会学部の設置に携わることが出来たことは私の中では一番大きな成果でした。学部増設の際に、文部科学省の方々の面接がありましたが、担当の文部科学省の方のお母様が実践の卒業生と伺い、大変なご縁を感じました。また、私が学長になった時には女性の学長という事で、日経新聞から取材の申し込みもありました。広井多鶴子先生にも設置の際には大変お世話になりました。こうして、ご縁は繋がっていくんだと強く感じました。

他にも大学基準協会の自己点検評価の現地調査を行い、合格をいただいたことや国立女性教育会館で女子大の女性学長をしている津田塾大学と私の講演を行ったこと、世界女性学長会議にも出席したことも良い思い出です。特に国立女性教育会館で講演した際、本学所蔵の伊藤博文から下田先生宛ての自筆書簡を展示したところ、内容的にも素晴らしい書簡でしたので大変好評で、当時の高橋芳樹理事長も安堵されました。

中国からの交換留学生を受け入れるため、北京広播大学（現在の中国伝播大学）の学生達の生活の様子を実際に見に行きました。そして留学生を受け入れるための、学生寮が必要だと考え、日野に国際交流会館を創って留

学生受け入れの体制を整えました。また、カタール国の首長夫人が伝統ある女子大学の女性学長にお話を聞きたいとのことで国連大学から招待を受けましたが、招かれたのは、津田塾大学、日本女子大学、清泉女子大学と私でした。その際、卒業生が私の為にドレスと帽子を縫ってくれました。お土産には、上皇さまの姉上様の池田厚子様にもお教えした経験がある実践の卒業生の「つまみ細工」のテキストと作品の鶴を贈り、大変喜ばれました。

とにかく学長時代の6年間は私にとって、初めての女性学長、そして卒業生であることは大変な重圧でした。必死に前を向いて、恥ずかしくないようにと歩いてきた…そんな6年間でした。

—— まだまだ男性中心の世の中、仕事と家庭の両立をどのように乗り切ったのでしょうか？

家族の協力があったからこそですが、私は仕事第一で頑張ってきました。母の協力もありましたし、実家でお願ひしていたお手伝いさんも来てくれて、家事を手伝ってくれました。それは恩師の桑沢先生の、「どちらかに重点を置きなさい、両方半々にはできない、自分の立ち位置をきちんと決めなさい」との言葉があったからです。そこで、私は仕事に重点を置きました。娘2人には、かわいいような思いをさせたことも多かったと思っています。現在、彼女達は、私達の心配をしてくれていますが、私は彼女達の時間を奪わないように出来る限り自分のことは自分でやるように心がけています。

—— 今の学生へのメッセージをお願いします。

私は山本有三『路傍の石』の「たった一人しかいない自分。一度しかない人生。何もしないで終わってしまったら、つまらないじゃないか。何かを目指して進め!」という言葉をいつも自分に言い聞かせ、励ましています。好きなことをコツコツ楽しんでやることは大事なことです。楽しんでやるということは、そこから更に一歩前に踏み出して、その先のことを思い描いて進むということです。すなわち、実践力が大事なのです。何事も考えて、歩き始めよ。自分を信じて、実践することです。そして、ご縁を大事にすることです。そのご縁を次の後輩たちにきちんと繋げていくことが大事だと思っています。



聞き手： 高橋桂子 所長／久保貴子 専任研究員
関登美子 客員研究員／金田ひろみ 研究所事務課課長
久住律子 研究所事務課

日時： 2022年8月30日（火）10:00～12:15

場所： ココブンジプラザセミナールーム
ココブンジWESTビル5階

新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部における
特別企画展示「下田歌子と教育」

生活科学部生活文化学科 教授・所長 高橋 桂子

下田歌子先生を創設者として現存する教育機関は、本学と新潟青陵学園(新潟市)になります。2023年度、本研究所が開所10周年を迎えるにあたり、創立者下田歌子に関わる研究、振興と相互発展を目指して情報、資源及び研究成果等の発信などを中心に連携協力を実施したいと考え、2022年7月29日(金)、前所長の広井多鶴子先生、専任研究員の久保貴子先生と高橋の3名で新潟青陵大学を訪問して参りました。我々の提案に関心を寄せてくださった先方からは、理事長・篠田昭先生、大学学長・木村哲夫先生、短期大学部学長・菅原陽心先生と事務局長・栗林克礼氏の4名が出席くださり、両者間で具体的にどのようなことが出来るか、2時間ほど話し合いを行いました。そこで、新潟青陵大学における下田歌子先生に関する資料展示や下田歌子記念女性総合研究所の兼務教員と新潟青陵学園の教員との研究交流から始めてみましょう、窓口は本学は下田歌子記念女性総合研究所、新潟青陵大学は地域連携センターでどうでしょう、ということになりました。

猛暑日の続く今夏8月18日(木)には、早速、新潟青陵大学地域連携センター長の齊藤智先生と片桐崇志氏が、新潟日報の記者の方とともに日野キャンパスにいらっしゃいました。本学からは経営企画部長・周東正紀氏と次長・浜中邦興氏、久保先生と高橋がお迎えしました。その場で、①11月1日(火)～11月30日(水)までの1ヶ月間、連携事業の第一歩として、下田歌子先生に関する特別企画展示を新潟青陵大学図書館で開催する、②11月5日(土)開催の新潟青陵学会に下田歌子記念女性総合研究所からメンバーが参加して研究面での交流をスター



トさせる、などが決まりました。①の展示は、久保先生を中心に、どのようなテーマで何を展示するのか検討いただき、金田課長、久住さんの奮闘もあって、短時間で完成度の高い展示物を準備することが出来ました。実践桜会新潟支部長の齋藤清子様をはじめ、北信越で生活する本学関係者の方も何人か、現地に足を運んでくださいました。ここに御礼申し上げます。②は、学会のテーマが「自由な心、支配される心」として高齢者を対象とした特殊詐欺、宗教との関係に関する発表とありましたので、本学からは下田歌子記念女性総合研究所元兼務研究員で現在は客員研究員として参加くださっている牛腸ヒロミ先生と高橋が出席して議論に参加してまいりました。

新潟青陵大学さんとの連携は緒についたばかりではありますが、このような取り組みを着実に進めながら確かな関係性を構築していくことに繋がれば、企画展示や研究交流に加えて、教育面や両大学の学生さん同士の交流の場へと発展させることも出来るのではないかと、密かにワクワクしている所でございます。新潟青陵大学訪問に先立ち、立ち寄りしました柏崎の地では、思いがけず、下田歌子先生の教育への熱い想いが結晶した場も確認することができ、新潟の地との深い関わりも再認識いたしました。

連携の更なる確立に向けて、次年度も微力ながら精一杯、尽力する所存でございます。皆様からの変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒、宜しくお願い申し上げます。

なお、今回の連携事業の実現・推進には、新潟大学名誉教授で元新潟青陵大学短期大学部副学長の五十嵐由利子先生から多大なご尽力を賜りました。ここに記して感謝申し上げます。

研 究 所 活 動 報 告

■ 創立記念日企画展示

2022年4月25日(月)～5月20日(金)
日野キャンパス本館1階 ホワイエ前スペース

■ 勉強会・報告

2022年5月 駒谷真美兼務研究員
細江容子兼務研究員
6月 久保貴子専任研究員
7月 高橋桂子所長
村上まどか兼務研究員
9月 広井多鶴子兼務研究員
志渡岡理恵兼務研究員
10月 松田純子兼務研究員
11月 大川知子兼務研究員
織田涼子兼務研究員
12月 深澤晶久兼務研究員

■ 新潟県立柏崎常盤高等学校訪問・調査

2022年7月29日(金)
奥田優学校長と面談
高橋桂子、久保貴子
2022年11月1日(火)
奥田優学校長、常盤会会長・小林良一氏、
副会長品田美恵子氏と面談
資料調査及び聞き取り調査を実施
延命寺・妙行寺を訪問
久保貴子、金田ひろみ

■ ドナルド・キーン・センター柏崎 訪問・面談

2022年7月29日(金)
ブルボン記念財団理事・吉田真理氏・佐藤仁氏と
面談
高橋桂子、久保貴子
2022年11月1日(火)
ブルボン記念財団理事・吉田真理氏と面談
2023年度のロビー展示に関する打合せ
久保貴子、金田ひろみ

■ 日野キャンパス図書館特別展示

2022年10月3日(月)～11月13日(日)
<リレー企画展示>
下田歌子の旅 ー東京へ、世界へー
I「岐阜から東京へー『東路之日記』から」

■ 常磐祭 演奏会・展示

第9回渋谷キャンパス常磐祭「幸せの訪れ」

2022年10月8日(土)10:35～11:05
9日(日)10:20～10:50

生田流箏曲部とのコラボ演奏会
下田歌子作詞の箏曲「雪の下」の演奏
解説：久保貴子
演奏指導：倉本伸子師範 野田美香師範
演奏：生田流箏曲部14名

第66回日野キャンパス常磐祭「希望と前進」

2022年11月12日(土)、13日(日)本館449・450教室
<リレー企画展示>
下田歌子の旅 ー東京へ、世界へー
II「東京から新潟へー『信越紀行』から」
渋谷常磐祭コラボ演奏会ビデオの放映
実践の現代史ナラティブ・インタビュー開催

■ 新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部 社会連携センター連携事業

特別企画展示「下田歌子と教育」

2022年11月1日(火)～31日(水)
新潟青陵大学1号館2階(図書館内)

■ 護国寺墓参

2022年11月14日(月)10:00

■ 「第20回 下田歌子賞」表彰式(協力事業)

2022年1月21日(土)
岐阜県恵那文化センター 学園資料展示等

■ 「家庭」担当教員向けセミナー⑤ (後援事業)

2022年5月21日(土)12:50～16:00(web開催)
6月18日(土)12:50～16:00(web開催)
7月30日(土)12:50～16:00(web開催)
9月24日(土)12:50～16:00(web開催)
10月22日(土)12:50～16:00(web開催)
11月19日(土)12:50～16:30(web開催)
講師：高橋桂子 ほか

詳細は
こちら



<https://www.jissen.ac.jp/shimoda/index.html>